

16	精神が異じょう	精神が異じょうな人が いく病院	わからない	わからない	おさけをやめられない
17	せいしんにしょうが いがある人	せいしんにかんする 病院	わからない	うつすびょうき 人に	アルコールがないとお ちつけない人
18	精神的に障害がある	精しん的びょうきの人 のための病院	わからない	じぶんをすご くおいつめる	おさけののみすぎでな る
19	?	?	?	ぼける。もの をなおしたば しょがわから なくなる	アルコールがやめられ ない
20	昔、いろいろなことが あってトラウマをもっ たり、気おくそうしつ になった人	精神障害を治す心の病 院	わかりません	わかりません	アルコールをやめられ ない病気
21	わからない	わからない	わからない	わからない	未成年のときから酒を のんでいそう
22	わからない	精神障害者がいくとこ ろ	わからない	ちょっとしたこ とで悲しくなる	アルコールをやめられ ない
23	やさしい	ひすとリックをおこす	わからない	わからない	こわい、のみすぎ
24	精神がおとろえてい る人。精神的ダメージ がひどい人	精神関係の病院	2つの精神つまり二 重じんかく	うつうつしてい る病気	酒がのみたくてたまら ない
25	精神的におかしい	精神がおかしい人がい く病院	わからない	わからない	わからない
26		精神障害者の人が行く ところ	わからん	わからん	のみたくなる
27	むずい	心の病院	多重人格	考えすぎ	のみすぎ
28	むずかしい	精神	精神	うつ	アルコール
29	精神いわゆる心がお かしい	精神障害の人がいる	多じゅうじんかく	あたまをうす	酒ののみすぎ
30	精神が不安定	分からない	分からない	分からない	分からない
31	仕方が無い	特別な所	仕方々無い	仕方々ない	自業自得
32	わからない	悩んでいる人がいく所	わからない	わからない	わからない
33	わかりません	わかりません	わかりません	わかりません	わかりません
34	精神状態が安定して いない	心の病気を直すところ	たじゅうじんかく	気がおちこん でじさつがん ぼうが出る	アルコールなしでは生 きていけない
35	心の病	閉じ込められたかんじ	分からない	自分の殻に閉 じこもる	アルコールなしでは生 きていけない。暴力

36	猜疑心が強い人がなる・孤独な人・ききわけがない	街から隔離されたところ	二重人格	心が弱い人・周りに流されやすい人	社会の荒波に負けた人・居酒屋に指定席がある
37	なかよし学級・池田小学校事件	薬・医者			おっさん・アセトアルデヒド・心筋梗塞
38	幼児のころ人格形成において何か重大な欠陥があったため、もしくは何か大きな衝撃を受けたときに心の奥深くにできた大きな傷跡のために精神に異常をきたしたもので。治すのが難しいといわれている		原因は幼児の人格形成段階に虐待などを受けてその現実から逃げるためにつくられる本人でない人格。本人に自覚がないため、犯罪をおこすこともある。そのため、本人の記憶にない犯罪を起こし、その人の人生に大きな支障をきたす		
39	暗い・もろい・自殺・こわい・とらうま・変・過去	白い・個室・冷たい・こわい		暗い・重い・こわい	こわい・赤い・やくざ・キレル・酒くさい・どなる・おじさん
40	つらそう	山の中	?	ひきこもり・一人	お酒が好きな人・やめられない
41	人との区別・殺人	隔絶		薬・ノイローゼ・殺人犯	ビール・酒・おっさん・肝臓・肝硬変
42		白い・広い	二重人格・怖い・近づきたくない	暗そう	暴力をふるう・お酒の見すぎ
43	人の考えから外れて行動が危ない人	精神障害者がいるところ・精神鑑定をするところ	二重人格・多重人格	分からない	お酒がやめられない・このままだと死んでしまう
44	アホになった人				酒
45	自分の思うがままに行動し、何をかわからない人	精神障害者の精神を直すところ	?	ひきこもる・さいなことでも重大なこととしてとらえてしまう	やめられん！！
46	アルツハイマー・ノイローゼ・リュウマチ・心臓にすき間がある人・さびしい人	黄色い救急車・閉じ込められる		心の病気	アル中・ビールの飲みすぎ

47	言葉が話せない人・歩けない人・大人でも頭のレベルが子供のよう	精神障害者を何とかしてふつうの人にもどす病院		自殺願望にとりつかれる精神病みみたいなもの	酒がやめられない病気
48	体に、普通の人より、ちょっと違う・言葉などの発達がすごくお	障害者の人たちがかよ			おさけをのむのがやめられない・子どもに影響をおよぼす
49	話すことばがおかしい・行動がおかしい	精神的な障害をもつ人が行く	わかりません・きいたことがない	よくわかりません・きいたことはあるけど	脳細胞がいかれる
50	事故・人間・刃物・精神的に不安定	木が周りに植えられている・白い建物	一人言・感情の起伏が激しい・レストランで甘い物ばかり食べている	悩みが多い・部屋に閉じこもりがち	家族に迷惑がかかる・暴力・短命
51	ショックを受けた人・薬・精神不安的				ビール・ワイン・酒
52	サッカー日本代表できた	泉原！！ろう屋・夜中に叫んでいる人々がいる	多重人格	自殺	アル中・顔が赤そう・くさそう・ウオッカ
53	ストレス	精神科医	多重人格		暴飲
54	あまりうまく言葉をあらわせない・ものごとをうまく考えられない・障害者・おちついていられない・集中力がな	精神障害者が行くところ・一つ一つ基そから直してくれるところ・薬をもらって精神を安定させてくれる所			お酒をやめられない・アルコール中毒になってしまう・高血圧になる・そのままアルコール依存症だとあぶない
55		隔離される・おりがある	よくわからない	サラリーマン・男性	男性・40代～50代・浪費家
56	多重人格・シンナーなどを吸うとなる	精神が不安定の人が行く病院・ベッドでねたきり			飲み続ける(?)
57	かわいそう・身体障害者	心が不安な人がよくいく		独り言が多い	お酒をたくさん飲む・体の臓器が全て悪くなる
58	精神が不安定な人・ちょっとおかしい人が行くところ			聞いた事はあ	アル中・いつもよっぱらっている・すいけん

59	ノイローゼ	精神に障害がある人が いく病院			お酒を飲みすぎたりし て、酒をのむことをや められない・アルコー ルをやめることができ ない
60	情緒不安定	情緒不安定な人がいく 病院	いくつかの精神に迷 ってしまい悩みこんで 精神状態が不安定に なる	ひきこもり	アルコール中毒・ビー ル・酒
61	普通の人と少し違う・ 気がおかしくなる	気を取り戻したり、楽に なるところ			お酒をやめることがで きない
62	くるった人(?)・白い パジャマ	暗い・けっこうやばい人 が多そう・叫ぶ人・色白 い人・こまったらしぱる・ かぎのついたドア	多重人格・突然子ど もになったり、暴力	明るいときか ら突然暗くな る・自己けい もう(?)にお ちいる・何も かも嫌になる	お酒・お酒なしじゃ生き られない・精神的苦中・ 現実投ひ・バー・ウイス キーの入ったグラス・ 暴力
63	外出できない・お世話 が大変	どんな人がいるのだろ う・病院内はどんなつく りなのか・危ない			お酒とかの飲みすぎ (??)
64	幼覚・うまくしゃべれ ない・自殺・こ独	あまり人目につかない ところにある・叫び声	記憶・自殺		酒・中毒・止めれない
65	危険なかんじがする	違う世界ってかんじ。自 分とはあまり関わり合 いが無い	分裂って元に戻れる のか?	これはなんと なく誰にでも 起こりうるって 気がする・疲 れている人	危険な感じ
66	幻覚を見たりして、自 分を自分でおさえら れない	精神障害者の精神を直 すところ通う病院		う名	お酒をやめられない症 状
67	自閉症とか?	大変そう	やばい	明るい気分の 時と、暗い気 分のときの差 が激しい・急 に叫んだりす る	お酒を飲まずにはいら れなくなる
68		少し暗いかんじがする	多重人格とどうちがう のかわからない		

69	気がおかしくなって、精神障害者をカウンセ 正常な人では起こさ ないような行動をする 人だと思う	リングしたりするところ だと思う		聞いた事はあ るが、どんな 病気かしらな い	アルコール飲料が手離 せなくなり、いつも酒び たりになってしまうこと い
70	精神病・きちがい・ノ イローゼ	ぎゃくたい・きちがい・ノ イローゼ・精神病	二重じんかく	ねこぜ・うつむ いている	酒の飲みすぎ
71	突然奇声を上げる	しらない		暗い感じでぶ つぶつって そう	ビール・サラリー・OL・ タバコ・ドラッグ
72	シンナー・麻薬・病院	シンナー・麻薬・注射			アル中・ビール・毎日お 酒だらけ
73	表と裏が激しい人・ま やくをしている人	あばれてそう・まやくを しないといけない人			
74	養護支設・養護学校・ 老人		多重人格		飲みすぎ
75	基本的な生活が精神 の病気などによって できない人達のこと	精神障害者を治すため のしせつ・精神障害者 のカウンセリングなどを 行う	多重人格とも呼ばれ る・幼児期のぎゃくた いなどによって起こる 場合が多いと言われ ている・自分の心 の中に性別や性格など が違う人格が現れる	一日中ボーと してしまう病 気	アルコールをやめたく てもやめられない病気
76	怒りっぽい・浮き沈み がはげしい・幼い・優 しい・素なお・好奇心 大勢	シンプル・山の上(丘の 上)・緑がたくさんあると ころ・音はあまりたてた らいけない・白い壁	二重人格・恐い・スト レス	暗い・マイナ ス思考・下を 向く・髪が長 い・無表情・自 分を責める・ ため息	暴力・顔が赤い・色白・ ひげがない・たんぱん・ 泣く・悲しい
77	気持ちが安定してい ない・自分のしてるこ とが分かっている	入りにくい・鉄のおりが ある	初めてきいた	不登校する 人・友達が いない	迷惑をかける・暴力的 になる
78	ビリーミリガン・危な い・神経質・内気	静か・清潔	虐待・危ない・神経質	抗うつ剤・不 眠症	無職
79	多重人格・暗い人	話を聞いて治す(カウ ンセラー)・おりが窓につ いていてなんか恐い	わからない・恐そう	知らない・ボ ケた人のこ と?	お酒がないといきなれ ない人・直すのに時間 がかかる・暴力をふる う
80	ビリーミリガン	みんな一人言いつてそ う	こころがこわれたイメ ージ	わからない	一日中酒を飲む・何か すごく辛いことがあった

					かんじ
81	多重人格・さみしそ う・友達がほしそ う・自分ではどう しようもないので 大変だと思う	あまり見たことが ない・医者は何で も知ってる・そ う・恐そうなイメ ージ	恐そう・自分では どうしようもない ので大変だと思 う	自殺してしま う・日によって 調子が違う・自 分ではどうし ょうもないと思 う	アルコールがないと 大変・アルコール がないと暴力的 になりそう
82	殺人事件・犯罪・罪に ならない	大変そう・大きい	よく知らない・始 めて聞いた	暗い・悩んで いる	お酒の飲みすぎ・飲 み出したら止まら ない
83	怖い人・多重人格・自 殺する・もう想・殺人 事件を起こす	心理士・少ない・注 射・白いイメージ・大 変なところ	なりたくない・30 代の人になって いそう・よく犯 罪を起こしそ う、でも無罪・治 りにくい	ひきこもり・く らい人・元気が ない人・体 そう座り	女の人・子ども などに暴力
84	シンナー吸った人・殺 人	自殺・		ひきこもり・元 気がない	虐待
85	危険	変人の集まる ところ・強制収 容	ドラッグ	引きこもり	酔っぱらい
86	養護学校・恐怖	子ども・パズル	心に傷がある	暗い・現実逃 避	おじさん・人生失 敗・リストラ
87	殺人者・マイペース・ 養護学校	脳みなどを聞 く・CTスキャン	多重人格	落ち込み・自 信なくす・マイ ナス思考・自 殺願望	酒・よっぱらい・た ばこ
88	養護学校・怖い		多重人格・トラウ マ	マイナス思 考・自殺	酒・なぐる・家庭 内暴力
89	少し怖い・意味不明 のコトバ	怖いイメージ・実 態がわからない・ 飛び降り自殺	多重人格・トラウ マ・リストカット	暗い・こころの 病気・マイナ ス思考・治療 に時間がかか る・自殺・リス トカット	酒・暴力・タバコ ・女性
90	関係持ちたくない・近 づきたくない	危なさそう		暗い	
91		退院できない・ター ミネター2	？	？	アル中・手がふる えている
92	マイケルジャクソン・ カテジナルース・マ クベ・ギニアスサハリ ン	ベッドにくさり・不 気味			居酒屋・星一徹・ 酔拳

93	知的障害者・病気・先天性・後天性	近寄りがたし・患者にとって心のオアシス	犯罪者が無罪・多重人格・精神鑑定	ノイローゼ・ぼんやり	アル中毒・よおっばらい・若者に多い・禁断症状
94		大変そう・医者もおかしくなりそう	突然変異	暗い人	現実逃避
95	関係持ちたくない	いきたくない	なりたくない・薬をやっているひと		酒がやめられないこと
96	お母さん・お姉ちゃん	危ないところ・自分が行きそうな雰囲気がある	スポーツ！！バトロア・やくざ	恋	お金がかかりそう・死・自分なりそう
97	犯罪者	犯罪者・収容・白い	崩壊・カミーユビダン	これなんですか？	ビール・おやじさん
98	薬物・犯罪	単独でなさそう		ノイローゼ	ビールや日本酒をいっぱい飲んでいそう
99	薬物乱用	多忙・機械	多重人格	友達いない・マイナス思考	酒・アルコール中毒・ニコチン中毒
100	怖い・何するかわからない・なおらない	横田めぐみさん・白い服・屋上から自殺	つらい・ビューチフルマインド	誰でもなりそう	だらしがない・赤黒い・トバクもすきそう

※ 誤字脱字も原本のまま記載

## 資料 8 精神保健意識調査表

このアンケートは精神科や心の病気についての皆さんのイメージや知識を調査するものです。  
わからない質問や答えたくない質問は空欄のままかまいません。  
ご協力のほど、よろしく申し上げます。

問 1 統合失調症（精神分裂病）という言葉を知ったことがありますか？

ある                      ない

問 2 統合失調症（精神分裂病）はどのような病気だと思いますか？  
あてはまると思うものに○をつけてください（複数回答 可）。

- ・誰でもなる可能性のある病気である
- ・病気の症状のために社会生活が難しくなることがある
- ・治らない病気である
- ・衝動的で何を起こすか予測不能の病気である
- ・多重人格者である
- ・入院が必要だ

問 3 そううつ病という言葉を知ったことがありますか？

ある                      ない

問 4 そううつ病はどのような病気だと思いますか？  
あてはまると思うものに○をつけてください（複数回答 可）。

- ・気分がゆううつで何もしたくなくなる
- ・現実から逃避している
- ・早く治療を始めると早くよくなる
- ・がんばれの声かけが大事である
- ・自殺に注意が必要だ

問 5 アルコール依存症という言葉を知ったことがありますか？

ある                      ない

問 6 アルコール依存症はどのような病気だと思いますか？  
あてはまると思うものに○をつけてください（複数回答 可）。

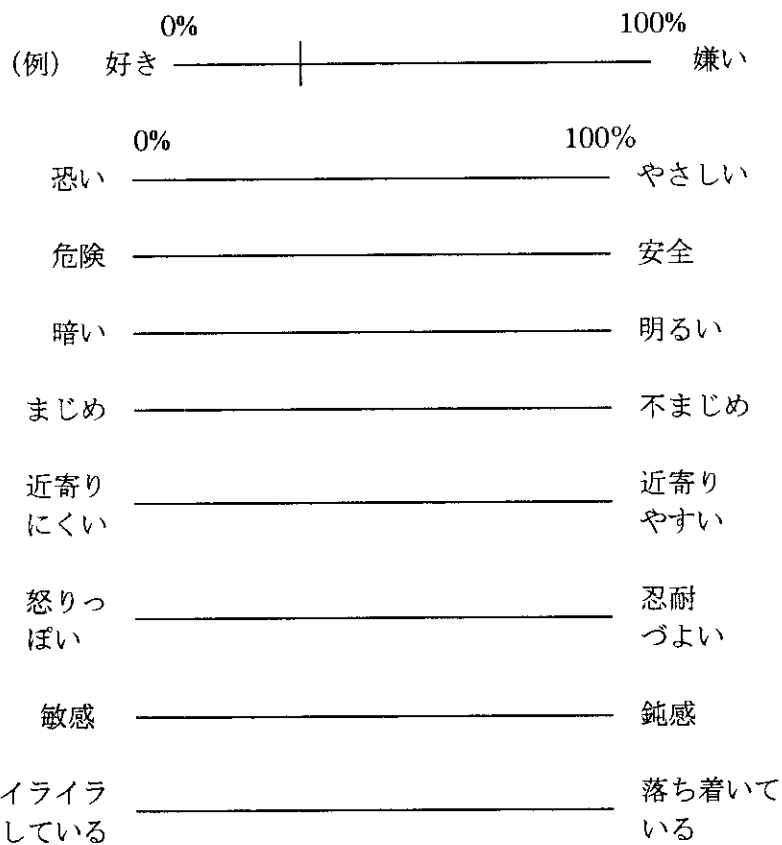
- ・酒を飲まずにいられない体になる
- ・意志が弱く酒がやめられない人である
- ・自業自得である
- ・人生の落伍者である
- ・酒が好きで飲み続けている
- ・肝臓病や糖尿病になりやすい



問7 精神病院はどのような場所だと思いますか  
 あてはまると思うものに○をつけてください（複数回答 可）

- ・内科や外科の病院と同じである
- ・入院患者は自由に外出できる
- ・高い堀に囲まれている
- ・刑務所のようなもの
- ・入ったら出てこられない場所

問8 精神障害という言葉からどのようなイメージを持ちますか？  
 あなたが思う割合のところに線を入れてください。



アンケートは以上です。  
 ご協力ありがとうございました。

厚生労働省科学研究費補助金（障害保健福祉総合研究事業）

分担研究報告書

精神医療・福祉施設における障害者との交流体験活動実態調査

分担研究者 堀口 淳 島根医科大学医学部精神医学講座教授

研究協力者 稲垣卓司 島根医科大学医学部精神医学講座助教授

研究要旨 中学生・高校生に精神保健の健康教育をすすめる上で、今後の方策を検討する参考資料とすべく山口県、広島県、島根県 3 県の精神病院・社会復帰施設・保健所等における当事者との交流活動実態調査をおこなった。精神病院や社会復帰施設等は一般住民との交流活動は多くの施設でみられた。しかし、中学生や高校生などの学生の受け入れは全体に非常に少なく、行なっている施設、病院でも「体験的」学習が主体で中心は「職場見学」の要素が強かった。精神疾患の正しい知識については学習することは未だ皆無であった。当事者と交流体験した学生の感想において、偏見や悪いイメージの変化がみられるという効果が多くみられたことから、学生に早期に正しい精神疾患などの知識を伝え、当事者と適切な交流が持てる機会もつことが精神保健を偏見差別なく広めていく上で重要と思われた。

A. 研究目的

中学生・高校生に精神保健の健康教育をすすめる上で、3 県内の当事者と学生の交流、どのような施設で、どのように行なわれ、成果がどうであるのか等の実態を把握し分析することで、問題点や課題が明らかになる。その結果学生教育の具体的な方策が定まるものと思われ、精神病院・社会復帰施設・保健所等における当事者との交流活動実態調査をおこなった。

B. 研究方法

対象施設：山口県、広島県、島根県 3 県それぞれの精神病院・社会復帰施設・保健所

調査方法：直接電話で聴取する。

積極的に交流活動を行なっている施設があれば訪問調査を行なう。

調査項目：最近 10 年間における、学生と当事者の交流活動の有無。また施設等の地域への交流状況を把握するため、一般市民と当事者との交流活動の有無活動の内容、人数、問題点、感想など

調査時期：平成 15 年 1 月から 3 月  
(倫理面への配慮)

情報収集のための調査、情報交換等については、特定の個人情報が出漏れないように守秘を徹底した。

C. 研究結果

## (1) 学生の交流体験

1) 精神病院は地域の一般住民との交流はバザーや祭りなどの機会をとおして多く持たれているが、学生と当事者との交流体験を行なっている精神病院は全体では少なかった。(山口県で18病院中3病院、島根県で11病院中7病院など地域によって差がみられた) 内容は体験学習として受け入れているところが多かった。人数は1回当たり少人数で3人程度が多かった。オリエンテーションのプログラムで精神疾患の知識を教育するものは殆ど無かった。交流も痴呆性疾患の患者との交流をしているところがほとんどであった。

2) 社会復帰施設でも、学生を受け入れて交流体験を積極的行なっている所は少なかった(山口県は一般住民のみで、広島県は1施設、島根県は2施設など)。内容は精神病院と同様、体験学習での受け入れで、人数も10人以下の少数であった。

3) 学生の感想では体験を通して、精神疾患への理解が深まり、偏見や悪いイメージの変化がみられた。

## (2) 一般市民の交流体験

### 1) 保健所における交流

山口県では全ての保健所で市民と当事者との交流活動が行われている。その活動内容は各保健所で概ね共通している。精神保健地域啓発活動で不特定の市民と当事者との交流を取り入れている。対象者数は概ね数十名から数百名規模。講演会・シンポジウム等の開催し、会場周辺でボランティア・当事者等が出店するなどして交流している。広島県では広島市内には精神保健福祉センターと8カ所の保健センターがあり、精神保健福祉セ

ンター主催で毎年「心の健康づくり大会」と称し、講演やコンサート、バザーを通じて、当事者と一般市民が交流していた。各保健所では、交流活動を主催しているところはないものの、地区祭りにおいて、作業所や社会福祉協議会などが出店するバザーを援助したり、当事者や地域住民を対象に精神保健に関する普及啓発(メンタルヘルスチェック等)を行っていた。

2) 精神病院・社会復帰施設における交流  
山口県では病院(31ヶ所)では一般市民との交流活動は少ない。対象は見学等の申し込まれた特定の市民、近隣の住民、学生等が対象となっており、対象者数も概ね数名から十数名。内容は病院見学や介護体験等で、どちらかという地域住民と病院との交流という色彩が強かった。社会復帰施設(16カ所)では多くの施設が保健所等が行う地域啓発活動に参加している。機関独自ではや地区自治会活動に参加したり、逆に施設行事の地域住民が参加するなどの交流を図っている。広島県では約40の精神科病院があるが、当事者との交流活動として、イベントの開催による触れ合いと地域住民を対象にした教育やボランティア養成などの普及啓発の2つのパターンがあった。まずイベント開催による交流であるが、病院主催によるものでは、その5割程度が毎年院内のバザーなどのイベントを開催し、地域住民の参加をはかっていた。実際数名~数十名の地域住民の参加であった。また広島県内には40余りの精神障害者社会復帰施設が存在し、その9割近くが毎年バザー、祭りや地域奉仕活動への参加をとおして、地域住民との触れ合いを体

験していた。島根県では11の単科精神病院がある。多くの病院で一般の地域住民とのふれあいの機会をもっていた。夏祭りやバザーなど。

#### D. 考察

地域において各精神病院や、社会復帰施設、保健所は一般住民との交流の機会をもつことを心掛け、病院や施設の理解、精神疾患の理解をすすめる努力は行われている。地域に開かれた病院としてのほたらきを一般住民に伝えている。保健所の交流活動では規模は比較的大きなものが多いが、精神病院や社会復帰施設では、地域が限られていることや、参加者が少ないなどの問題があり、広く一般住民との交流を行うという面では十分とは言えない。

一方、精神病院や社会復帰施設での学生の受け入れは全体に少なく、「体験的」学習が主体で中心は「職場見学」の要素が強いように思われる。精神疾患の正しい知識については学習することは未だ皆無であった。

病院や施設自体、「見学」の域を出ず、当事者との交流を通じての精神疾患の理解をすすめるというスタンスに無いように思われる。

学生を受け入れている病院でも、痴呆患者との交流の機会の方が精神病患者との交流より多い。体験交流する病棟や担当するスタッフの問題、当事者の選択と協力の問題があると思われる。

また精神疾患の正しい知識を教育するプログラムを持つ病院や施設が少ない理由として、プログラムをどうしたらいい

のか、どんな当事者を選択したらいいのか、どの程度を教えたらいいのか、またどう教えたらいいのか、教本的なマニュアルが無いことも考えられる。

また生徒を送る側の学校としても、「職場見学」が第1義で、精神疾患を理解するために体験学習を行なうという意識は無いことが予想された。さらに、当事者と体験交流し、精神疾患の理解を深めることができても、学校の先生の理解が浅薄では有効な体験にはならない。むしろ悪化させるかも知れない。

#### E. 結論

地域において各精神病院や、社会復帰施設、保健所は一般住民との交流の機会をもつことを心掛け、病院や施設の理解、精神疾患の理解をすすめる努力は行われている。しかし学生の体験学習や総合学習での病院や社会復帰施設での受け入れがいくつかの病院で行われているのみであった。体験を通して、精神疾患への理解が深まり、偏見や悪いイメージの変化がみられるという効果はみられるものの、当事者との交流が主体で精神疾患の知識については学習することは未だ皆無であった。

また今後、交流体験学習をすすめる手引きの作成が必要になる。また、学生の教育とともに、教職員への精神疾患の正しい理解のための教育プログラムも必要となると思われる。

#### F. 健康危険情報

なし

G.研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H.知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

## 山口県内関係機関での当事者と住民との交流活動の実態調査

### 1. 保健所での交流活動

全ての保健所で市民と当事者との交流活動が行われている。その活動内容は各保健所で概ね共通している。精神保健地域啓発活動で不特定の市民と当事者との交流を取り入れている。対象者数は概ね数十名から数百名規模。講演会・シンポジウム等の開催し、会場周辺でボランティア・当事者等が出店するなどして交流している。募集された一般市民を対象としたボランティア講座では県内で「当事者の会」で活動している当事者が講師として招かれ交流している。日常的には保健所デイケア、憩いの家活動、作業所活動で市民ボランティアが参加する形での交流が行われている。当事者が中心の野菜販売等の店を商店街に出店し、交流しているところもある。

基本的には当事者との交流を媒介にした地域啓発活動が保健所では取り組まれている。

保健所（県内15カ所内支所6カ所）

交流の有無	定期	機関名	回答者名	対象者と数	内容
1有	定	豊浦健康福祉センター	岩岡	一般市民	交流フェスタ等の保健所事業に当事者・一般市民が参加
2有	定	豊浦健康福祉センター豊田支所	清水	一般市民	精神保健ボランティア等の関心のある市民との交流会
3有	定	岩国健康福祉センター玖珂支所	宮崎	一般市民	精神保健ボランティア等の関心のある市民との交流会
4有	不	宇部健康福祉センター	落合	一般市民	市民向け精神保健講座
5有	定	岩国健康福祉センター	岸本	一般市民	交流フェスタ等の保健所事業に当事者・一般市民が参加
6有	定	防府健康福祉センター	吉次	一般市民	精神保健ボランティア等の関心のある市民との交流会
7有	定	山口健康福祉センター	上野	近隣住民	交流運動会等
8無		宇部健康福祉センター厚狭支所	吉富		
9有	定	柳井健康福祉センター大島支所	福重	ボランティア	ボランティアと当事者で食事会
10有	定	萩健康福祉センター	山本	一般市民	市民ソフトボール大会等の行事に参加
11有	定	柳井健康福祉センター	藤井	一般市民・ボランティア・近隣地区住民	共同作業所等の地域活動に参加。当事者との食事会

## 2. 精神科病院での交流活動

一般市民との交流活動は少ない。対象は保健所とは異なり不特定の一般住民を対象とした企画はない。見学等の申し込まれた特定の市民、近隣の住民、学生等が対象となっており、対象者数も概ね数名から十数名。内容は病院見学や介護体験等で、どちらかという地域住民と病院との交流という色彩が強い。学生を対象とした交流があったが、主として看護学生が多かったが、王司病院のように中学生を対象として交流を行っているところもあった。

単科の精神科病院（県内31カ所）

	交流の有無	定期・不定期	機関名	回答者名	対象者と数	内容
1	無		千鳥が丘病院	金子		
2	無		日良居病院	藤原		
3	無		防府保養院	國本		
4	有	不	徳山静養院	青木	一般市民・看護学生/3名 6名	病院見学とSST参加
6	有	不	王司病院	麻上	中学生/5名 で2回	病院見学や介護体験
7	無		横田病院	中村		
8	有	定	稗田病院	入佐	一般市民/約 30人	運動会等の病院行事に近隣住民参加。
9	無		福永病院	福永		
10	有	定	小野田心和園	満田	高校生/10名 程度	ふれあい看護体験・市民公開講座・短大公開講座
11	有	不定	小郡牧原病院	牧原	近隣住民/10 名程度	隣接の社会復帰施設の紹介と当事者との共同作業での交流
12	有	定	防府病院	水津	近隣住民・小中学生・看護学生	ふれあい看護体験（住民・学生等）・職場体験学習（小中学生）・その他病院行事
13	有	定	高嶺病院	橋本	近隣・一般住民	病院近郊の清掃作業、断酒会等の自助集団を通じての交流、院内行事にボランティアが参加
14	有	不定	田代台病院	石田	近隣住民	病院行事に近隣住民が参加
15	有	定	太田病院	吉村	近隣住民	文化祭等の病院行事に招待
16	有	定	下関病院	水木	地域住民	夏祭り等の病院行事に出演
17	無		片倉病院	山根		
18	無			根来		

### 3. 社会復帰施設での交流活動

保健所等が行う地域啓発活動に参加している。機関独自ではや地区自治会活動に参加したり、逆に施設行事の地域住民が参加するなどの交流を図っている。

社会復帰施設（グループホームは除く）（県内16カ所）

	交流の有無	定期・不定期	機関名	回答者名	対象者と数	内容
1	有		生活支援センターふなぎ	佐伯	一般市民/数百名	地区自治会活動参加・保健所等の啓発活動参加・施設内での交流活動
2	有	定	夢家連	桑山	一般市民	陶芸教室等の施設行事に市民が参加。地域清掃等の地区活動に当事者が参加
3	無		ひまわり荘	大下		
4	有	定	援護寮リフレの家	施設長	地域住民	清掃等の地区自治会活動に参加。福祉祭り等の地域行事に参加



## 広島県内の精神科病院、精神障害者社会復帰施設・精神保健福祉センターにおける当事者との交流活動実態調査

### (1) 精神科病院における当事者との交流活動の実態

広島県内には約 40 の精神科病院があるが、当事者との交流活動として、イベントの開催による触れ合いと地域住民を対象にした教育やボランティア養成などの普及啓発の2つのパターンがあった。

まずイベント開催による交流であるが、病院主催によるものでは、その5割程度が毎年院内のバザー、運動会、盆踊り、文化祭などのイベントを開催し、地域住民の参加をはかっていた。実際数名～数十名の地域住民の参加があるとの回答であった。特色あるところではある病院では地域住民に呼び掛けて、院内農園で採れた野菜、クッキーなどのお菓子などを収穫祭（院内バザー）で販売していた。また地域生活支援センターを有するある病院では、患者の家族、地域住民を対象に定期的に将棋大会、カラオケ、バザー、ビデオ鑑賞会を開き、調理教室・栄養指導を行っていた。また別の病院では社会福祉協議会ソーシャルクラブを通して、地域ボランティアを募り、作業所とタイアップしてパンやおやつ作りなどの料理教室、木工品の販売、遠足を開催していた。花祭り大会で地域の高等学校のプラスバンド部の演奏が行われ、また病気についてのパネル展示などを実施している病院もあった。地域の商店街の主催する町内夏祭りでは、当事者によるかき氷やヨーヨー釣りなどの出店を企画している病院もあった。

地域住民を対象にした普及啓発を通しての交流は、精神科病院が社会復帰施設、公的機関と協力して実施されていた。地域生活支援センターにて社会福祉協議会と連携を取り、一般住民の希望者を対象にしたボランティア養成講座を企画し、医師、看護師、ソーシャルワーカーや民生委員を講師として普及・啓発などに努めているところもあった。住民を対象とした精神保健福祉講座を開催したり、市の福祉まつりで当事者による喫茶コーナーの運営などを行っているところもあった。

上記以外に地域住民を 4～5 人を募り、精神科病院が地域社会にどのように受け止められているかをモニターしてもらい、定期的に会議を開いて地域に開かれた病院の運営をはかっている病院もあった。

### (2) 精神障害者社会復帰施設、精神保健福祉センターにおける当事者との交流活動の実態

広島県内には 40 余りの精神障害者社会復帰施設が存在し、その 9 割近くが毎年バザー、祭りや地域奉仕活動への参加をとおして、地域住民との触れ合いを体験していた。

中には、運動会、バスハイク、食事会、コンサートなどを開催し、積極的に地域住民を受け入れる事業所もみられた。また、現場で一緒に作業を行うことで交流を図るところもあった。そのうち1カ所では人数や期間は不定期ながら、地元の高校から希望する学生が現場に訪れ、見学や体験学習を行っていた。施設側としては、病気を持ったことの大変さを十分説明し、当事者との対面にも配慮しているとのことであった。交流後の学生の感想として、「そこら辺の人と変わらない」「そこまで考えたこともなかった」などが多く、精神障害について再認識する機会となったようであった。もう1カ所では、地元高校の看護実習で毎年数名の学生が訪れ、数回ではあるが当事者と触れあい、共同で作業を行っていた。また地元中学生の職場体験の一環として、不定期ながら体験実習を行っていた。施設側としては、やはり、当事者の病状に与える影響に十分配慮しているとのことであった。

広島市内には精神保健福祉センターと8カ所の保健センターがあり、精神保健福祉センター主催で毎年「心の健康づくり大会」と称し、講演やコンサート、バザーを通じて、当事者と一般市民が交流していた。各保健所では、交流活動を主催しているところはないものの、地区祭りにおいて、作業所や社会福祉協議会などが出店するバザーを援助したり、当事者や地域住民を対象に精神保健に関する普及啓発（メンタルヘルスチェック等）を行っていた。

### (3) まとめ

広島県内の精神科病院、精神障害者社会復帰施設・精神保健福祉センターにおける当事者との交流活動実態調査を行った。

精神科病院ではイベントの開催による触れ合いと地域住民を対象にした教育やボランティア養成などの普及啓発の2つのパターンがあった。イベントを介して、地域住民と当事者との交流体験の場として定着している病院もみられたが、参加する地域住民が少人数に限られてしまう傾向があった。また普及啓発を介したものではボランティア養成講座、パネル展示など比較的内容が充実したものもあったが、広く一般市民を対象とするのは難しいようであった。

精神障害者社会復帰施設では触れ合い体験学習として地域の中学生・高校生を不定期ながら受け入れている施設があったが、その際当事者の病状に与える影響に苦慮していた。精神保健福祉センターは保健所と連携して「心の健康づくり大会」を開催し、当事者との交流体験の場の提供、普及啓発などに努めていた。

## 島根県交流体験実態調査

### A 病院 職場体験として

中学、高校生 それぞれ 10 名 中学生 職場体験  
痴呆病棟 レクが主。  
高校生 家庭看護福祉選択科目  
訪問看護 st 同行訪問など。  
老健

感想：「核家族多いため、老人とのふれあい良かった。」  
「こんな施設があったのか。痴呆のイメージ変わった。」

### B 病院 受け入れてない。

### C 病院 地域の小学生 痴呆性グループホーム見学 1 日

### D 病院 体験学習 中学生 希望者 3 日間

痴呆病棟のみ 老人のケア、デイケア、OT と。

### E 病院 小学生 総合学習 5 年生 5 人 患者と話す。

看護の日体験 中学生、高校生 3-5 人 1 日体験  
精神疾患の話はせず。

### F 病院 受け入れていない。

### G 病院 看護協会 1 日看護体験（今後の職業選択のため）

中学生、高校生 それぞれ 10 人ずつ受け入れ。  
精神科開放病棟（精神症状の安定している人）  
痴呆病棟

挨拶→紹介→守秘義務→体験（レク、会話など）→午後まとめ  
精神疾患については話さず。

感想：「良い経験。」「Ns になりたい。」「怖いと思っていた。」  
「良かった。」

### H 病院 総合学習 中学 3 年 と高校生 2 人ずつ 4 日間

老健 説明→見学→ヘルパーの手伝い レク、入浴介助

### I 病院 受け入れていない。

### J 病院 未確認。

## ④ 病院

体験学習（今後の職業選択のため）

中学2年生 3日間 2-3人 x3クール

精神科開放病棟 病棟見学、スタッフの仕事、レク、患者とも話。

感想：「構えてきたが、偏見あったが、普通と変わらない。」

「スタッフの仕事大変。」「病院の違う面をみた。」

まとめ：痴呆病棟への受け入れが多い。

精神科病棟での体験は少ない。 精神疾患の説明もしていない。